

平成29年度

学校関係者評価報告書

平成30年9月

学校法人筑波研究学園
成田つくば航空専門学校

○平成29年度 学校関係者評価報告書について

成田つくば航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、およびグランドサポート学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。

本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

1. 実施日時・場所

平成30年9月18日（火） 14:00 ～ 16:00

成田つくば航空専門学校 E22教室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員

中満悦郎	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長
福田和磨	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部統括マネージャー
大木直人	株式会社インテックス 業務部業務課 課長
古谷豊	取手市小堀地区 区長
東屋善昭	成田つくば航空専門学校 保護者代表
高橋朋世	成田つくば航空専門学校 保護者代表
今村吉宏	成田つくば航空専門学校 卒業生代表
古橋亮祐	成田つくば航空専門学校 卒業生代表

○学校関係

柿崎明人	成田つくば航空専門学校 校長
山口繁則	成田つくば航空専門学校 副校長
春日由光	成田つくば航空専門学校 事務部長
久保嘉孝	成田つくば航空専門学校 航空整備学科長
佐藤宣知	成田つくば航空専門学校 グランドサポート学科長
染谷敏文	成田つくば航空専門学校 総務課長
藤井伸一	成田つくば航空専門学校 教務部長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：平成29年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 自己評価は、以下の10項目を実施しました。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

(1) 次の4段階(*)をもとに「学校自己点検・評価報告書」の各評価項目の平均点を小数点以下第1位までを評価。

(*) 4段階：適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1

(2) 委員会で出された意見や質疑、提案事項を記載。

5. その他

平成29年度 学校自己点検・評価報告書を併せご覧ください。

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価 4.0

- ・ 学校の理念・目的・育成人材像は、明確になっており、適切に公開されている。
- ・ 社会経済の状況と航空業界、及び地域社会のニーズと将来性を見据えた将来構想を策定している。

(2) 学校運営

評価 3.8

- ・ 学校運営に関係する規則等は整備されており、適切に運営されている。
- ・ 安定的な学校運営には若い教員の確保は不可欠で、適切な人員計画の基に早目の人財確保が必要である。一方で、航空業界はLCCの台頭で航空技術者人財が極めて逼迫している状況にあり、多方面に採用の働きかけをしているが苦慮している現状である。

(3) 教育活動

評価 3.8

- ・ 教育課程は、教育理念を踏まえ、教育課程編成委員会、関連行政機関・第三者機関等から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。
- ・ 学科は、各専門分野の企業と連携し、年度計画を基に外部実習や外部講師による演習授業を導入して職業教育の充実を図っている。
- ・ 実社会の現場の人の声には非常にパワーがあり、実務での苦労話・経験談を伝える機会を多くして欲しい。

(4) 学修成果

評価 3.8

- ・ 他校で内定を出した後に、整備士資格を取得出来ず内定を辞退されるケースが見られた。内定は資格取得前に出すので、資格取得の際の見極めをしっかりとお願いしたい。
- ・ 資格取得率は前年と比較して向上した。資格ごとの合格率と学習効果を評価し、教材の変更や教え方の改善を常に行った。

(5) 学生支援

評価 3.7

- ・ 学生に対する経済的な支援体制に関し、それらに関わって退学された学生はいないが、奨学金の利用者は増えている。以前は借りられる枠があったが、昨年度からその枠が撤廃された。奨学金以外に、手続きも簡単に借りられる教育ローンを今年度から2社と契約し学生に紹介している。
- ・ 保護者との連携に関し、保護者に対して現状報告をSNS等の利用で、もう少し細かく知りたい、年間スケジュールの細かな中身についても知りたいとの意見が出され、現状を把握し、パスワード等セキュリティー管理を含めて課題改善に向けて検討していくこととする。
- ・ 整備学科の時間割変更が頻繁に行われタイムリーに伝わらないケースがある。変更の情報は担任からスピーディーに流せる体制にはなっているので、引き続き情報共有を徹底する。

(6) 教育環境 **評価 3.0**

- ・ 防災に関し、「地震発生時に当校が避難場所になっているが、どこまで使用して良いのか？」との質問があり、区長さんを通じ再度情報共有する。
- ・ 施設、設備の中長期計画について、様々な付帯要因でその実行が計画通りに行かないケースがある。計画をそのままにすると、何が計画で、何が実施事項か？判りにくくなってしまうので、リニューアルを掛けていく必要がある

(7) 学生の受け入れ募集 **評価 4.0**

- ・ 学生募集に関し、4年間右肩上がりだった入学者数が、今年度はN-TAC全体として非常に厳しい結果となった。体験入学、企業との連携により企画を開催し、より良い募集活動につなげていく。
- ・ 昨年度、学生募集に関する情報管理システムを導入。分析、募集戦略策定、推進等に有効に活用している。

(8) 財務 **評価 3.7**

- ・ より安定した財務基盤を築くため、学生確保と経費節減に努めていく。

(9) 法令等の遵守 **評価 3.7**

- ・ 個人情報の管理に関し、導入した学校管理システムとネットワーク上のセキュリティー対策により確実なものになっているが、情報の取り扱いが社会問題化していることから教職員間の再認識、共通理解に努めていく。

(10) 社会貢献・地域貢献 **評価 2.6**

- ・ ボランティア活動については、学生個々にて実施しているが、今後は積極的に学校全体として奨励、支援していく必要がある。
- ・ 今後、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備・検討して行く必要がある。
- ・ 学校の施設利用については、英語検定やビジネス能力検定等、各種国家試験会場として教室の提供を行っており、エプロンを緊急時のドクターヘリの離着陸場としている。又、校舎を災害時の避難場所として地域へ便利供与している。
- ・ 毎週金曜日に実施している学校及び周辺の美化、環境整備等は引き続き積極的に行っていく。

以上